

I 記事の内容

米信用市場に火種、隠れ債務 サブプライムで破綻続発 08年と類似も

·2025/09/30

米国で、自動車部品メーカーとサブプライム自動車ローン事業者の破綻が相次ぎ、2008年の金融危機を想起させる信用市場の火種となっている。

自動車部品メーカーの「隠れ債務」問題

自動車部品メーカーのファースト・プランズ・グループ (FBG)は9月28日、日本の民事再生法に相当する米連邦破産法第11条(チャプター11)の適用を申請した。負債総額は最大500億ドルと推定されているが、負債の全貌は不明確である。

サブプライム自動車ローンの延滞と清算

9月10日にテキサス拠点のサブプライム自動車ローン事業者、トライカラー・ホールディングスが連邦破産法第7条(会社清算)を申請しました。同社は低所得のヒスパニック系移民向け(多くは不法移民と推定)に自動車ローンを提供し、年間融資額は約10億ドルに成長していました。

破綻の要因は、自動車ローンの延滞が増加し、特に90日以上の延滞率が5年ぶりの高水準(6月時点4.9%)にあることが一因であった。融資債権を証券化した資産担保証券(ABS)の価格が急落した。

これらの問題は、2008年の金融危機につながったサブプライム住宅ローンの急拡大と、簿外の金融会社を通じたレバレッジ(債務のテコ)拡大を想起させ、当時と同様に、隠れ債務の表面化や証券化商品の価格急落が金融機関の資本を削る懸念がある。

クレジット戦略担当者は、現在の社債などのスプレッド(上乗せ金利)が極めて小さい「熱狂的ともいえるクレジット市場の現状」に鑑み、投資家に金融危機前の歴史に留意するよう警告している。サブプライム自動車ローンの組成額は、住宅ローンのピーク時(2007年1~3月期に1145億ドル)と比べると小規模(2025年4~6月期に304億ドル)であるが、信用不安の広がりが懸念される。

II 記事に対する見解

今回のサブプライムローンの焦げ付きが火種となって金融機関が破綻しても、リーマンショックほどに、大規模かつ長期にもならないのではないかと考えている。

これらが発生した要因は別として、不動産の場合は、デフォルトがそのまま大きな資産(不動産)価格の低下につながったが、今回の自動車の場合は、デフォルトが直接的には資産(自動車)価格の低下にはつながらない可能性が高い。そのため、ローン対象の資産市場にまでは影響が少ないという意味では比較的にリスクは小さいように思われる。